

あぐりめ～る新川

第100号(令和6年6月発行)

富山県新川農林振興センター

〒938-0801 黒部市荻生 3200

(TEL) 経営支援班 (0765) 52-0268

園芸振興班 (0765) 52-5192

入善・朝日班 (0765) 52-0094

魚津・黒部班 (0765) 52-0945

(FAX) (0765) 52-3115

新川農業の未来を担う人 ～第45回～

(株)アグリライズ南保の三姉妹 (入善町 藤澤ちひろ・諸石 光・南保静香)

～ 地域の農業者に励まされて、着実に経営を発展 ～

「お父さんのお米を子供達にこれから先も食べさせたい。」と、出産、子育てを機に実家の農業を手伝い就農した次女のちひろさんが代表となり、父、妹の光さんと2015年、(株)アグリライズ南保を設立しました。

その後、光さんの夫の幸大さん、姉の静香さんも就農、水稻60haを中心に、露地ねぎ、落花生やサツマイモ、小粒イチジク、そして今年は大豆に初挑戦と、設立10年目で経営面積は2倍以上に大きく成長しています。

この間、地域の農業仲間や元気なセンパイ女性農業者の姿に励まされながら、スマート農機の導入による効率化、AS I AGAP取得といった経営の高度化に加え、ノンカフェイン玄米珈琲などの新商品開発も進め、女性の感性を活かしながらも着実な経営の発展を進めてきました。



静香さん(長女) ちひろさん(次女) 光さん(三女)

～ それぞれの得意を結集して「農業を楽しく」 ～

「まずはやってみよう！」と、チャレンジ精神旺盛なちひろさん、農業機械を乗りこなし、デザインも得意な光さん、GAP認証に手腕を発揮、事務ならお任せの静香さん、と得意分野は三人三様。それでも、「田んぼを預かる責任と感謝」の気持ちは、父、陽一さんの教えを引継ぎ、丁寧な管理に努めておられます。「未だ、父に褒められることはありません！」と、その年、その時の篤農技術を「見て」、「感じて」学ぶ日々が続きます。

今後は、自社「無人直売所」で、もっと地域の皆さんに提供できる新しい品目にも取組みたいと、ちひろさん。目を合わせ「うんうん」と微笑む2人なのでした。



機械のオペレーションと日焼け対策はバッチリ！

P.2…【気象変動に打ち勝つ稲体づくり】～生育ステージに応じた適切な水管理で根の健全化を図る

P.3…【斑点米の発生防止に向けて】～カメムシの発生・増殖しにくい環境づくりと割粃対策～

P.4、5…主穀作経営の複合化におすすめする園芸品目について

P.6…「とやまGAP」が国際水準を満たすGAPに生まれ変わります！他

P.7…鳥獣害の実態と侵入防止柵の設置・維持管理のポイント

P.8…栄えある受賞おめでとうございます

P.9～12…耳より情報・・・農業経営者の皆さんへ♪♪ 次号あぐりめ～る新川101号に関するお知らせ

付録…鳥獣害対策 柵チェックリスト

【気象変動に打ち勝つ稲体づくり】

～生育ステージに応じた適切な水管理で根の健全化を図る～

高温に打ち勝つ米づくりのためには、しっかりと根に育てておくことが大変重要です。水管理により根の形態は大きく変わるので、生育ステージに応じた水管理を徹底し、活力の高い根に育てましょう。

1 「中干し」は田植後4週間頃に開始 ～根をしっかりと伸ばす～

中干しは、無効分げつの抑制と根に酸素を供給し、稲体の健全化を図るとともに、収穫時の地耐力を確保します。

コシヒカリの中干し目安は、70株植えて15本/株、60株植えて18本/株となりますので、ほ場の状況に応じて、田植後4週間頃を目安に確実に開始しましょう。また、大規模経営体などで田植えが遅い場合は、梅雨が本格化するまでに晴れ間を逃さず行いましょう。



図 適期に適正な中干しを行った稲の根の状態

2 中干し後は、幼穂形成期まで「間断かん水」 ～根の発生を加速～

幼穂形成期頃までは「間断かん水」を行い、根に適度な水分と酸素を補給するとともに、足跡の深さが3cm以内を目標に、ほ場を固くしましょう。

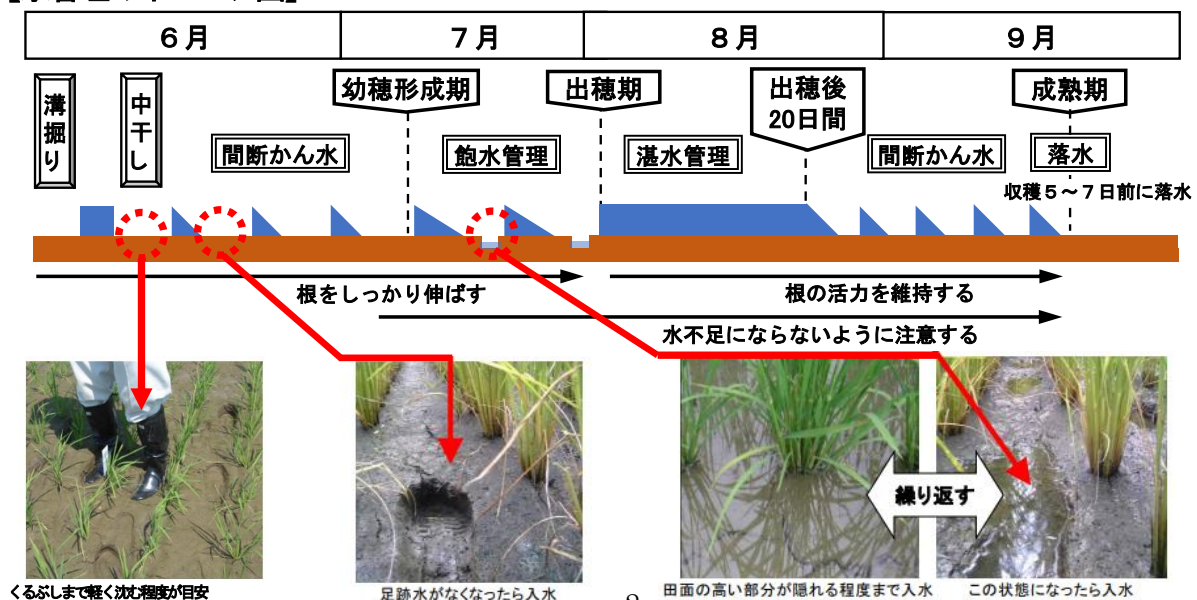
3 幼穂形成期から出穂までは「飽水管理」 ～水分と酸素で活力維持～

幼穂形成期～出穂期にかけて、稲体の水分蒸散量は最大となるので、水分不足にならないよう注意しましょう。「飽水管理」とは、足跡に水が残る程度の状態になったら入水して、土が水分不足にならないように管理することです。

4 出穂後20日間は「湛水管理」 ～登熟期間の稲体活力を維持～

出穂後の20日間は、登熟盛期となることから、十分に水分を与え登熟を促しましょう。田面が出ない程度の湛水状態が基本です。なお、水持ちの良いほ場では適宜水を入れ替え、根の老化を防ぐことが大事です。

【水管理のイメージ図】



【斑点米の発生防止に向けて】 ～カメムシの発生・増殖しにくい環境づくりと割粃対策～

管内の主な斑点米カメムシは、カスミカメ類の「アヒゲホミドリカミカメ」と「アスジカミカメ」、大型の「クヘリカメシ」です。県病虫害防除所の5月20日頃の、畦畔や雑草地のすくい取り調査において、「アスジカミカメ」は平年の3.85倍と多くなっています。斑点米による等級格下げを防ぐため、まずは水稻ほ場周辺の雑草を減らし、カメムシ類の増殖を抑えましょう。



アヒゲホミドリカミカメ



アスジカミカメ



クヘリカメシ



カメムシ類による斑点米

1 畦畔や雑草地の草刈りは早めに実施

カメムシ類は春先から水稻の出穂前までは雑草地に生息しており、特に出穂したイネ科雑草を好みます(図1)。早めに草刈りを実施し、カメムシ類の初期発生量を少なくし、次世代の発生を抑えましょう(図2)。

また、大麦の収穫後はほ場を放置せず、すき起こしするとともに、積極的に大豆や園芸作物、緑肥作物などの作付けを行いましょう。

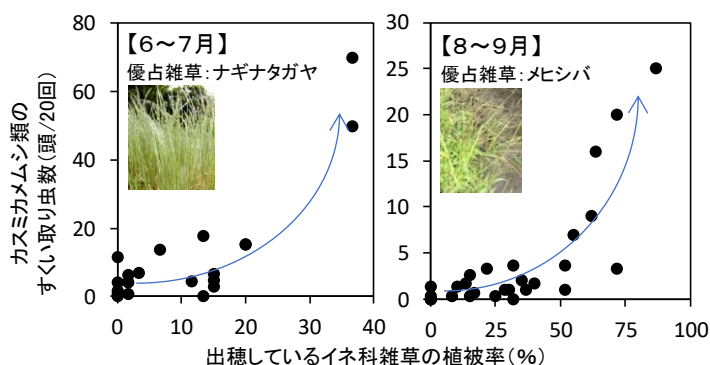


図1 出穂中のイネ科雑草の割合とカスミカメムシ類の発生

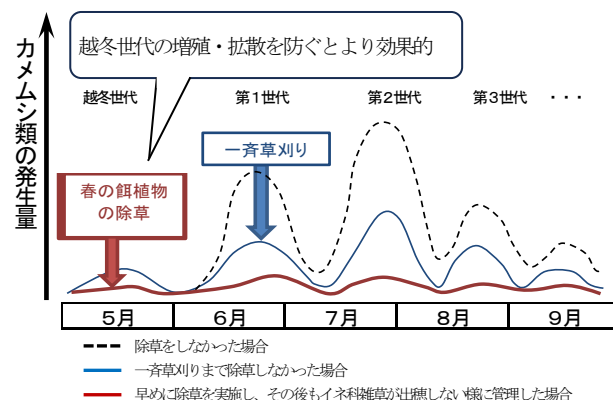


図2 カメムシ類の発生消長(模式図)

2 割粃の発生軽減対策

割粃が多いと粃に隙間が生じ、カメムシが吸汁しやすくなります(図3)。

粃殻のケイ酸濃度が高いと割粃を軽減することができることから(図4)、積極的にケイ酸質資材を施用しましょう。



図3 割粃に発生した斑点米

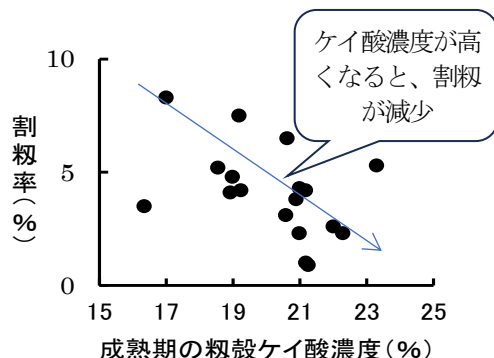


図4 成熟期の粃殻ケイ酸濃度と割粃率

主穀作経営の複合化に おすすめする園芸品目について

主穀作経営体に複合品目としておすすめする果樹、野菜の品目を紹介します。

1 果樹品目

水稻育苗ハウスの有効利用を検討している経営体におすすめしている果樹の品目を紹介します。果樹栽培に既存の水稻育苗ハウスを利用する利点は、①設備投資を抑止しながら果樹に取り組むことができる、②果樹で必須となる薬剤防除をほぼ省略できることです。

(1) ぶどう（水稻育苗ハウス利用のポット・コンテナ栽培）

ア 品目の特徴

- ・消費者向けに直売することで有利販売ができます。
- ・作業が集中する開花期の作業（花穂整形、無核化处理、摘粒等）を、天候に左右されず実施することができます。
- ・水稻の育苗期間中にぶどうの葉が光を遮ることはありませんので、ポットは、ハウスサイドに設置したままで大丈夫です。



写真 水稻育苗ハウス利用のぶどう栽培

- ・ぶどうは、容量が60～90Lのコンテナやポットで栽培するため、株元かん水の装置が必要です。
- ・着色不良等の高温障害の発生を抑えるため、天井の高いハウスを使う、換気扇を設置する等、房付近の気温が上がり過ぎないように、工夫が必要です。

イ 作型および主な作業

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
主 な 作 業				← 水稻育苗 → 芽かき 花穂整形 基肥	新梢管理(誘引、摘心) 植調剤処理(無核化、肥大促進) 追肥 防除 かん水	摘粒・摘房 袋かけ	収穫					せん定

ウ 1aあたりの収支および労働時間等の目安

収入	136 千円	単収 114kg/a、単価 1,200 円/kg
経費	35 千円	農薬・肥料・諸材料費等 5 千円、販売費 5 千円 労務費 25 千円(臨時雇用 23 時間)
所得	101 千円	労働時間 24.7 時間

2 野菜品目

①全農などを中心とした販売体制が整っていること、②機械化一貫体系が確立し、少人数で大面積の作付けが可能、③収穫後は、調製・選別・販売を全農とやまに委託可能、④栽培マニュアルが整備され栽培技術が確立している等の利点がある主穀作経営体の園芸複合経営に有望な品目を紹介します。

(1) たまねぎ

品目の特徴

- ・省力機械の開発が進み、作業の省力化や大規模栽培が可能です（全農で定植機、収穫機等のレンタル機があります）。
- ・水稻との作業競合が少ないので主穀作経営体でも取り組みやすく、後作に秋冬どりにんじん、キャベツとの組み合わせが可能なことから農地の高度利用が可能です。
- ・収穫後、乾燥・調製・選別作業は全農に委託できます（鉄コンテナを運搬できるトラクタや車両が必要です）。



写真 乗用収穫機

作型および主な作業

月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
主な作業		○ — △ — △ —									□ — □	
		は種	定植					追肥			収穫	
							防除					

10a あたりの収支および労働時間等の目安

収入	323千円	販売収入（5 t × 53円/kg）、産地交付金
経費	196千円	材料費・機械利用料等183千円、販売管理料13千円
所得	127千円	労働時間52時間

(2) にんじん

品目の特徴

- ・畝立同時は種機、乗用収穫機等が利用でき、機械による一斉収穫でフレコン出荷も可能です（フレコンのつり上げや運搬できるトラクタや車両が必要です）。
- ・収穫後の洗浄・選別作業は全農に委託できます。
- ・発芽率を確保するため、は種後にスプリンクラーによるかん水が重要です。



写真 フレコン回収型収穫機

作型および主な作業

月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
主な作業	○ — ○ —				□ — □	
	は種				収穫	
				除草剤散布、防除		

10a あたりの収支および労働時間等の目安

収入	328千円	販売収入（3 t × 90円/kg）、産地交付金
経費	229千円	材料費・機械利用料等159千円、販売管理料70千円
所得	99千円	労働時間38時間

「とやまGAP」が国際水準を満たすGAPに生まれ変わります！

農産物の輸出が年々拡大傾向であることや国際的な人権重視の流れ、経営規模と雇用機会の拡大により、農場経営管理の重要性が高まりつつあることから、農林水産省は令和4年3月に「国際水準GAPの推進方策」を策定し、国際水準GAPへの取組みを進めています。

「とやまGAP（富山県適正農業規範）」においては、既存の「食品安全」、「環境保全」、「労働安全」の60項目に加え、新たに「人権の保護」及び「農場経営管理」に関する8項目が追加され、国の動向や「ウェルビーイング」に歩調を合わせつつ、国際水準を満たすGAPに見直されます。

今回の見直しに伴い、「とやまGAP」は国際水準に並ぶGAPになるとともに、第三者認証GAP（JGAPなど）の取得へのステップとして活用できます。

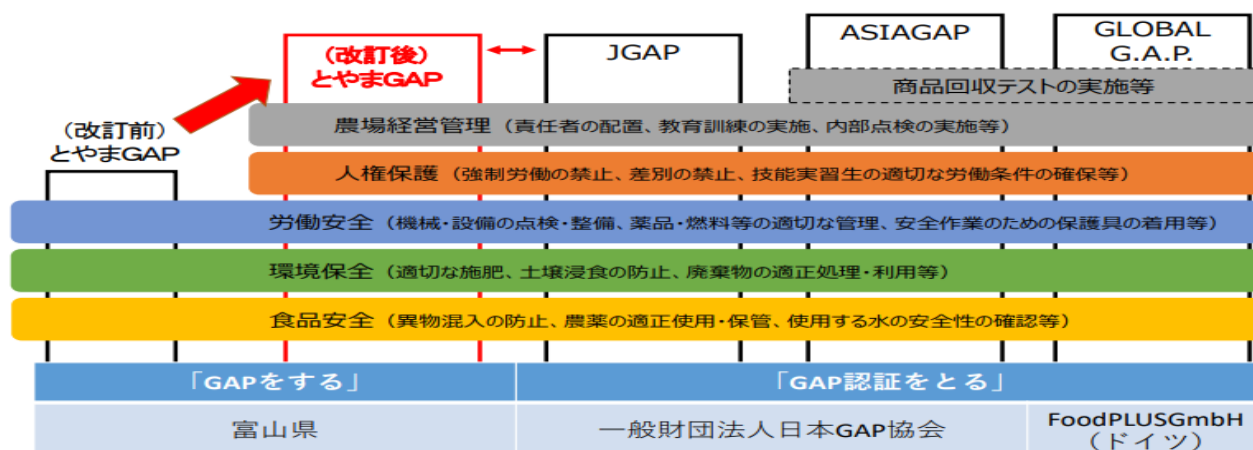


図1 各GAPの構成、取組分野など

雇入れ時の「安全」・「衛生」に関する教育が義務化されました！

経営主などの事業者は労働者に対し、作業時の事故防止のため、必要な知識の習得に向けて安全衛生教育を行う義務がありますが、農業を含む一部の業種においては、雇入れ時教育のうち、機械の取扱方法などの一部項目を省略することができました。

しかし、令和6年4月1日からは雇入れ時の省略規定が廃止され、「機械などの取扱方法」、「安全装置や保護具などの性能や取扱方法」、「作業手順」及び「作業開始時の点検」に関する教育が、農業を含む全業種で雇入れ時に教育することが義務化されました。

作業者の雇入れ時の教育は、「農場管理マニュアル」（ASIAGAP などの）のほか、農林水産省ホームページに掲載されている「事業者向けテキスト」や「労働者向けリーフレット」（図2を参照）などを活用して、実施しましょう。

（農林水産省
「労働安全衛生に関する
教育を実施しましょう」）



図2 労働者向けリーフレット

鳥獣害の実態と侵入防止柵の設置・維持管理のポイント

1 新川管内の鳥獣害の実態

令和5年度の鳥獣による農作物被害額は、970 万円です。被害の内訳は、約8割をイノシシが占め、次いで、ニホンザル、鳥類（カラス、ヒヨドリ、ムクドリ等）の順に被害が多くなっています（表、写真1、写真2）。また、近年は、ニホンジカが急速に増加しており、令和4年度に初めて被害が確認され、今後の被害拡大が懸念されています。

表 新川管内における獣種別の農作物被害金額(万円)

獣種	R1	R2	R3	R4	R5
イノシシ	1,406	802	384	616	759
ニホンザル	176	284	52	98	100
鳥類	23	16	0	38	94
ニホンジカ	0	0	0	291	0
その他	94	0	0	26	17
計	1,699	1,102	436	1,068	970

※データ出典：鳥獣類による農作物の被害状況調査

※鳥類はカラス、ヒヨドリ、ムクドリ等、その他はハクビシン、タヌキ、クマ等



写真1 ぶどうを食べるイノシシ



写真2 リンゴを食べるカラス

2 侵入防止柵の設置・維持管理のポイント（詳細は付録チェックリスト参照）

新川管内の農作物被害の約98%は、侵入防止柵（以下、柵）を設置済みの圃場で起こっています。柵の効果をきちんと発揮させるには、正しく設置し、定期的に点検して適切に維持管理することが重要です。そこで、対策のポイントについて紹介します。

（1）電気柵

対象鳥獣を感電させ、鳥獣が『怖い』と思う心理効果を利用して侵入を防ぐ柵です。従って、対象鳥獣が電線に触れやすいよう、必ず対象獣種に応じた高さに電線を張る必要があります（シカは、サル用と同様の高さで対策可）。

必要電圧（4～8kV）を確保するため、定期的に電圧測定し、電圧が低下している場合は早急に原因を特定し、対処します。電圧低下の最も多い原因は、雑草等の電線接触による漏電です（写真3）。電気柵下にアース線入り防草シートを使用すると、電気柵の効果を高めつつ、維持管理を省力化できます（写真3）。



写真3 雑草の接触により漏電している電気柵(左)



アース線入り防草シートを設置した電気柵(右)

（2）恒久柵（ワイヤーメッシュ柵、金網等）

頑丈な構造（金属製）により物理的に侵入を防ぐ柵です。

イノシシの柵下部の掘り起こしや押し上げによる侵入が問題となるため（写真4）、柵下部の補強が必要です（写真5）。また、柵周辺を除草し、柵の点検をやすくするとともに、見晴らしを良くして鳥獣が近づきにくくすることも大切です。



写真4 柵下部を掘り起こして

侵入しようとするイノシシ



写真5 柵下部の補強事例



※ベグによる補強(左)、金網による補強(中央)、パイプおよびワイヤーメッシュによる補強(右)



～栄えある受賞おめでとうございます～

農山漁村女性活躍表彰・農林水産大臣賞



(株) Stay gold てらだファーム 寺田代表 (入善町)

ワクワクとやま農林水産奨励賞



御田 大介さん (黒部市)

富 山 県 農 業 振 興 賞 受 賞 の 皆 様

【魚津市の方々】



写真は左から
園芸部門・個人 寺西 純一 さん
環境にやさしい農業部門 (農) 布施の里 大森代表
園芸部門・集団 魚津市もも研究会 関口代表

【黒部市の方々】



写真は左から
米部門・集団 (全国米麦改良協会会長賞)
(株) アグリとりの原 中代表
農産加工部門 能登 博子 さん

【入善町・朝日町の方々】



写真は左から、
複合経営部門 (株) ライスヒル 米原代表 (入善町)
米部門・集団 (有) ロッキーファーム 寺崎代表 (入善町) (農林水産大臣賞)
米・種子部門 鬼原 幸嗣 さん (入善町)
指導者部門 青木 靖浩 さん (朝日町)
指導者部門 高見 薫 さん (入善町) 写真の掲載はありません。



今後の益々のご活躍をご期待申し上げます。

経営者の皆さんへ ～雇用就農資金のご案内～

雇用就農者の確保・育成を推進するため、49 歳以下の就農希望者を新たに雇用する農業法人等を対象に支援しています。詳細は「農業をはじめ. JP」を検索いただきご確認いただくか、富山県農業会議または当センターまでお問い合わせください。

「雇用就農者育成・独立支援タイプ、新法人設立タイプ」

49 歳以下の就農希望者を新たに雇用する農業法人などに対して、年間最大 60 万円（新法人設立タイプは年間最大 120 万円）を最長 4 年間助成します。

※令和 6 年度公募情報 第 1 回募集：3 月 1 日～4 月 4 日（終了）

第 2 回募集：7 月～8 月頃（予定）、第 3 回募集：10 月～11 月頃（予定）

「次世代経営者育成タイプ」

農業法人等において、次世代の経営者を育成するため、先進的な農業法人や異業種の法人に役職員を派遣して行う際の派遣研修経費及び代替職員を雇用した場合の代替職員人件費に対して助成します。※令和 7 年 1 月 31 日まで随時募集

「被災農業者向け雇用就農促進支援」

令和 6 年能登半島地震により被災した農業者を新たに雇用する農業法人等に対して資金を助成します。

※令和 7 年 1 月 31 日まで随時募集



農業をはじめ. JP はこちら

（経営支援班）

青年農業者の方、必見！ ～青年農業者育成基金事業のご案内～

富山県農林水産公社では、「青年農業者育成基金」を活用して農業経営に必要な資格取得等に対する支援事業を実施しています。大型特殊自動車免許やドローン技能認定等を取得したい方、従業員に取得させる計画がある方は、事前に当センターまでお問い合わせください。

対象者：概ね 45 歳までの青年農業者（申請時に県農林振興センター所長の推薦が必要）

助成内容

助成区分	助成内容	助成額
先進技術 取得支援	資格取得タイプ	・トラクタやフォークリフト等の農業機械の操作資格の取得 ・農業簿記検定等経営管理に関する資格の取得
	研修参加タイプ	・県内外で実施される研修等の受講
	研修企画・イベント参加タイプ	・自主企画する研修会や先進地視察等の実施 ・首都圏等のマルシェや商談会への出展等
先進技術体系導入支援	・生産に関する新技術体系（調査・設置による新技術の検証等）やパソコンソフトの活用等による経営管理技術の導入等	事業費の 1/2 と 5 万円のいずれか低い額 ①と②の合計と 5 万円のいずれか低い額 ①青年農業者本人の旅費・宿泊費の 1/2 ②参加費、負担金および研修開催費の 9/10 事業費の 1/2 と 10 万円のいずれか低い額

（経営支援班）

耳より情報・・・令和6年度新規補助事業のお知らせ

経営者の皆さんへ ～スマート農業機械等導入支援事業～

スマート農業は、農作業の高度化・効率化に向けて注目が高まる中、スマート農業機械の中でも自動走行が可能な自動操舵システムはオペレーターの負担軽減等が図れるなど、期待が膨らんでいます。

県は、今年度から「富山スマート農業高精度位置補正情報サービス（富山RTKサービス）」を（公社）富山県農林水産公社に委託し（株）NTT e-Drone Technology が運営）始めたところで、当サービスを促進するために経営体の環境を整備しながら、自動操舵システム等の導入を支援する事業を開始します。詳細は、当センターお問い合わせください。

事業実施主体	認定農業者 集落営農組織 農業者が構成員となっている組織
事業要件	1) 富山スマート農業高精度位置補正情報サービスを5ケ年利用する計画があること (注: 同サービスは自身のスマホから接続して利用可能で利用料 26,400 円/年(税込み)、その他に必要な、通信料は自己負担) 2) 毎年度、導入機械の利用状況について報告すること
補助対象機械	1) 自動操舵システム等高精度位置補正が可能なスマート農業機械 2) 農業機械を自動走行可能にするための装置 等
補助率	1/3以内 (補助額上限83万円)

(経営支援班)

集落営農組織の皆さんへ ～「集落営農組織資格取得支援事業」で資格取得～

県では、集落営農組織の広域連携を促進することを目的に「集落営農広域連携促進事業」を下表の内容で今年度から始めます。当事業メニューの「集落営農組織資格取得支援事業」は、構成員の資格取得を支援する事業で、詳細は、お問い合わせください。

メニュー	内容	事業費
広域連携組織の モデルづくり	広域連携組織の設立に向けた合意形成に係る経費 (講師謝礼、視察旅費、資料印刷代、会場費 等)	35 万円/地区 (定額)
	広域連携組織の設立に係る費用 (登記費用、印鑑 等)	30 万円/地区 (定額)
集落営農組織資格取得支援	45 歳以上 60 歳未満(※1)の構成員が取得する資格への助成 (但し1組織1名までで、令和7年3月まで取得する資格に限定)	補助率は1/2 (但し上限あり)

(※1) 令和6年4月1日現在の年齢

詳細

【要望の手続き】

令和6年7月1日(月)までに、下記のQRコードから要望してください。



QRコードは

要望が多い場合は抽選により採択者を決定します。

対象組織	補助率等
広域連携に取組む 集落営農組織(※2)	資格取得に係る経費の1/2 (補助上限50,000円)
上記以外の 集落営農組織	資格取得に係る経費の1/3 (補助上限30,000円)

(※2) 広域連携とは、機械の共同利用や資材の一括購入等を通じコスト軽減、園芸品目への取組み等を通じ収益の確保を図り、経営体質の強化を目指す連合体。

また、同封した別紙にある令和6年7月9日(火)に富山県民会館での研修会に参加の場合も1/2となります。

(経営支援班)

経営者の皆さんへ ～「経営力アップのための園芸塾」の開催～

県では、園芸人材の育成と担い手経営体における野菜生産の拡大を図るため、農業法人集落営農組織、新規就農者等を対象に、経営力の向上に向けた座学講義と先進農家研修を下表により実施しますのでご案内いたします。

1 水田園芸拡大コース（たまねぎ、にんじん、キャベツ、さといも）

日時	内容	会場（★に集合してください。）
6月18日 (火) 14:00～16:30	【キャベツ実習】(※1) ・安定生産のポイントと導入計画の作成 ・春まき初夏どりほ場視察	★高岡市農業センター (高岡市西藤平蔵 234) (株) クボタファーム紅農友会
6月25日 (火) 13:30～16:00	【たまねぎ実習】(※1) ・単収向上のポイントと導入計画の作成 ・たまねぎ乾燥・調製施設視察	★JA なのはな水橋支店 (富山市水橋肘先 400-2) JA 全農とやまたまねぎ集出荷施設 (富山市高島 361)
7月2日 (火) 13:30～16:00	【にんじん実習】(※1) ・単収向上のポイントと導入計画の作成 ・うね立て作業及びスプリンクラーによるかん水の実演	★県農林水産総合技術センター 園芸研究所 (砺波市五郎丸 288)
10月22日 (火) 13:30～16:00	【さといも（さつまいも）実習】(※1) ・単収向上のポイントと導入計画の作成 ・省力機械化体系の提案	★JA なのはな水橋支店 (富山市水橋肘先 400-2) 国営農地再編整備事業「水橋地区」ほ場 (富山市水橋地内)
8月2日 (金) 13:30～16:00	・雇用、労務管理等のマネジメントなど(※2) ・機械導入等の補助事業	★富山県農業総合研修所 (富山市月岡新 296)
11月中旬	・大規模野菜栽培の事例 ・意見交換	県内先進農家（調整中）

2 高度利用・周年栽培コース（白ねぎ、青ねぎ、トマト、軟弱野菜）

日時	内容	会場（★に集合してください。）
6月24日 (月) 13:30～16:00	【トマト実習】(※3) ・トマト栽培のポイント、施設の環境制御システム	★とやま農業未来カレッジ ICT 園芸ハウス (富山市東福沢 2、中央農高敷地内)
8月2日 (金) 13:30～16:00	・雇用、労務管理等のマネジメントなど(※2) ・機械導入等の補助事業	★富山県農業総合研修所 (富山市月岡新 296)
11月中旬	・白ねぎ、軟弱野菜を中心とした周年栽培事例 ・意見交換	県内先進農家（調整中）

(※1) 県園芸振興推進協議会と同時開催 (※2) 一部、外部講師を予定 (※3) とやま農業未来カレッジと同時開催
受講をご希望される方は、開催日時の5日前までに、①受講したい内容、②受講者氏名、③従業員の方は所属④住所、⑤受講者の電話番号（連絡先）を当センターへご連絡ください。

TEL : 52-0268 担当：池田、村崎、森本まで、上記の①～⑤について伝えてください。

FAX : 52-3115 自由様式で上記の①～⑤までをご記入の上、送信してください。

